

●今となったらなつかしい2000年始めの記録です。15年前になります。還暦ですね。



・・・あなたは「やさしいひとですネ」と言われるのと、「思いやりのある人なのネ」といわれるのと、どちらがいいですか？

僕は、ここ半年ほど、この二つの言葉[やさしさ]と「思いやり」について、自分なりの解釈、というか、定義を馬鹿みたいに考えています。（もともたく、人に、やさしいと言われているある人物を仮想して、どちらの言葉がその人にピッタリなのか？考えています。

2009年冬亡くなりました。犬の花子です。

今の時点での仮回答としては、**やさしさ**とは生まれつきのもので、それはやさしそうな顔つきと、やさしそうな言葉づかいをする人を言うのではないかと。どちらかといえば、ビジュアルなものであって、ハートフルなものではないという気がする。、人々が「あの人はやさしいよ。」と言う時は、その人の性格や人格とは無関係の、その人が持って生まれたDNAのなせる業ではなからうか。

変な言い方かもしれないが、「やさしさ」とは景色みたいなものといえないか。美しいものは美しいと言ったような・・・一方、「思いやりのある」という言葉について考えると。

相手のことを思ったり、相手の身になって物ごとを考えると、程度の差はあれ、いくばくかの、自己犠牲が伴う。その痛みを超えて相手に施しの出来る人、そういう人を「やさしい人」とは言わず、「思いやりのある人」と言う。

単純に相手の痛みは誰でも分かるし、助言も出来るけど、問題は、自分に犠牲というか代償を強いられた時に相手のために喜んでそれが出来る人。そんな人のことを「思いやりのある人」という。

バリアフリーの関係でも、旅や、趣味の世界でも、人間関係があるかぎり、この「思いやりの心」を発揮する勇気を持ちたいと思う。

2001・10・26

けいじ。

2001（平成13年）11月22日

今年の八月にホームページの構想を練り始めました。

丁度、「八期通信」を上野さんに手伝ってもらっている頃でした。

もっとも、伏線があって、それは、ウルムチの馬さんとの約束（といっても実際は、M氏がしきりに、勧めていたのですが）日本に留学をしないか？面倒みるよ。と、・・・本人も少しはその気になったのか、「資料を送って下さい」「連絡はメールで大石さんにします。」という話になりまして、「そのうち学校のパンフレットでも送りましょう。」ということでした。

とりあえず、今回の旅の写真と鹿児島島の街の写真でも送ろうかと思ったのですが、中国語の文字変換が出来ず、（東京のY嬢に変換ソフトまで借りて勉強したのですが、いまだ成功していません。）陳さんに文字を書いてもらい、馬さんに送ったのですが、返事が来ず、届いたのか、どうなのか分からず、そんなこんなで、ホームページの方が世界中何処でも間違いなく、こちらのことは発信出来るのでは、それと、八期仲間に、情報をメールで送るなら、「八期会のページ」を作ったほうが、写真もいっぱい載せられそうだし、「掲示板」を利用して、お互い情報交換もはかれる。とまあ、こんなことが動機といえます。

あれやこれや考えているうち、なんとなく、トップページ(index)のデザインが浮かんできました。

それからは、「バリアフリー天文館」も近づいてくる。釣りのことものせたい。忘れないうちに旅行記もたまっている、・・・と頭の中で、画像、写真、動画、文字が錯綜して、仕事が手に着かなくなりました。

9月初め、上野氏に一度、僕のプロバイダーのso-netで無料のホームページを作って貰いました。(今も存在していますが)トップページだけですが、・・・でも、アドレスがとても長いのと、「容量が少ないのでは?なんだか、一杯入れるのがありそう・・・」そんな気がして、そちらは止めました。

そんな時タイミングよくパソコン誌が特集でCD-ROM試供版つき「簡単に出来るホームページの作り方」を見つけ・・・、練習を開始。

だんだん格好がついてきたがやはり、試供品、何かおかしい。(本当は、そんな気がしたのかもしれないが)とうとうと言うか、納得して、ソフト購入を決意、到着を待つ。

僕のホームページ師匠の牧野氏のアドバイスでなんとなく出来上がっていく「天文館どっこむ」で登録する。

10月終わりには、70%完成。途中何度も、上野氏、牧野氏をわずらわす。

馬さんから「掲示板」に開設祝いが届く。そして、11月3日第四回「バリアフリー天文館」開催。

14ページの力作**2001・ミニおはら祭&バリアフリー天文館**が完成。そして、

11月19日**「二・ハオ・中国」のシルクロード浪漫**14ページ完成。

11月20日・ナカマチベルグ・ギャラリーの北迫正治の**「花と詩と」**完成。

ここで、第一段階はひとまず、落ち着きました。



- 中国語ソフト「Wnn」の購入で中文のマスター
- イラストレーターとフォトショップのマスター
- 容量の少ない動画の挿入
- スキャナーのマスター
- 自分史の完成
- 雲南の旅・紀行の完成と 釣り紀行。

などを、第二ステージの課題として考えています。乞う！ご期待。

早速は**来月7日の八期会・クリスマス忘年会**の紹介報告を作る予定です。

あなたの原風景って何ですか？

あなたはこんな瞬間ってありませんか？

今朝のこと、起床して庭を眺めながら、まだ習いたての気功(鶴翔練功)の型マネをしていました。

暖かい朝でした。銀杏の葉と桃の葉が黄色く、透明がかっていて今にも落ちそうな気配です。

フト、木々を見上げていた時、瞬きのようなそのほんの一瞬、**その時**がよぎったのです。

コトバで表現できない瞬間。その風景の中に溶け込んで、とても小さいころの僕が、

一枚の写真の中に収まっている・・・そんな感じといたら、近いかもしれない。

たまたなくいい気持ちだが、「よぎる」と言う表現がいいのか、「フッと現れ消える」その速さは、「現われ」と「消える」の間に、「」もつかないぐらいの速さですが。

僕が中国に郷愁を感じるとすれば、この**一瞬の「よぎり」**が僕の原風景なのかも知れません。

「自分の過去にあったことは決して忘れる事はないのです。なかなか思い出すことは出来ないにしても・・・」今日、久し振りに、観て来た映画「千と千尋の神隠し」のなかで聞いたセリフです。

「忘れてしまった記憶が甦る」なんてフレーズをよく聞くことがありますが、これなども「フト思い出した」が正しいのかも知れません。

自分の記憶の中にはっきり思い出せる風景は僕の場合、大龍小学校の1年生(北京から引き揚げてきて1年か2年位)か、もう少し前の阿久根にいた半年ぐらいか、それは断片的ではあっても、はっきり僕自身であって、セリフ

は覚えてないけど、動画として、紛れもない自分がそこに居る。

ところが、それ以前つまり、大陸での自分は「…のような気がする」そんな暗示にかかった世界でしかない。大陸で生まれ、幼少を北京で過ごしたことは事実なのだから、当時の北京がまだ残っている中国の何処かに僕の原風景、つまり瞬・まばたきの景色があるに違いない。 そんな風景を見つけ、過去を思う存分思い出して見たい。……僕が中国に惹かれるとしたら、そんな気がしてならない。

2001年11月24日

人は生まれてきて成長を続ける。成長を続ける為には目標が必要となる。

目標は二つある。一つは生甲斐としての内部目標を達成するため、もう一つは今という外部状況に対して外部目標を瞬時に設定する事で今を生きる。

夢のような大きな生甲斐感を内部目標として設定した人は、夢の実現はなかなか到らないので、それだけ大きな困難や苦勞を背負って生きる。しかし、この夢の実現に取り組んでいる事に意味を見出し、輝いて生きる事ができるかが問われるのである。孔子は「論語」の中でこのことを次のように述べている。

・・・「**之を知るは 之を好むに如かず。之を好むは 之を楽しむに如かず**」・・・と

人の生甲斐感をどのように設定するかは、その人の歩んできた人生と、そこから将来の人生をどのように設計すに依存する。

日常の平凡さを最も大切な生甲斐感として設定し、日々の状況の中で最善に生きることまで至福感をうる人もいる。自分で自分の人生の舵取りをして、困難に立ち向かい輝いて生きることによって周囲の人を引き上げてしまうことも出来る。

あなたはストレス ありますか？ 有無有？

「ストレスの解消には美容室でのシャンプーが一番。」そんなお客様は結構多い。

「僕、ストレスって、あまり感じた事ないんです。」「アア、いいわね、先生は趣味も多いし……」そんな会話は結構多い。

いろんなことが頭に詰まっっていて、脳が混乱してしまうとストレスが発生する。とすれば、そのいろんなことを一つ一つ始末していけば解決するはずだけど、「解決出来ないからストレスになるの」となるから始末におえない。

僕が思うに、悩み、ストレスに目的を設定すればどうだろう、解決出来ないだろうか。

目的のある悩みはむしろ楽しみに変わることが多い。と思う。これは僕の経験。

たとえば、あるイメージを白い紙にデザイン化しようとする時、つまり目的を具象化しようとする時、頭の中は、あれこれ悩み苦しむ、しかしこのことは楽しみでこそあれ、ストレスでは決してない。といっても、これは僕の場合だが。しかしこれには約束があって、結果を必ず、出来るだけ早く出すことである。そして次の悩みに集中して、それを解決する。

それと、僕がつとめて努力してることは、二人称、また三人称が「……がどう考えてるか、思っているか・？」ということを考えないことにしている。

このことは、とてもとてもむずかしい問題である。相手が、立場上、上位にある場合は特にむずかしい。こういう時は、まさに、相手にどう思われようが、無視する事である。世の中には「上手にあしらわなければならない人」が一人や二人は必ずいるものです。まあ天敵ですね。そういう人は、……そういう人の為にあなたの人格はけっしてマイナス評価はされません。ご心配なく。そんなことを考えてるから、悩んでるから、ストレスが起きるのですヨ。

2001・11・26・my Birth-day

コンプレックスというコトバは余り好きではありません。

何故なら、うけるイメージが暗いというか、マイナスの感じがするからです。

「人知れぬ悩み」と言えば、内容は同じでも、こちらの方は青春の甘酸っぱさを感じます。

多分、人は皆、今まで引きずってきた。そしてこれからも決して誰にも言わない「人知れぬ悩み」を複数個、黄泉の国まで持っていくことでしょう。

やはり、最愛の人は自分自身だからでしょうか？

『人知れぬ悩み』ってどんなのでしょうか？

僕は小～中学にかけて赤面症？でした。特に女の子が傍にくると顔がほてり、真っ赤になるのです。皆が付けてくれたあだ名（ニックネームなんてしゃれた言葉はなかった）が**ユデダコ**これはもう「人知れぬ悩み」の始まりでした。しかし、これは今に引きずってないし、こうして言えるので違うのでしょうか。

確実に今、「人に言えない悩み」が二つあります。そして、もし、仮に誰かに打ち明けたとしたら、「なーんだ、そんなこと、別に君だけじゃないよ。たいしたことないじゃない。」といわれるに違いありません。そんな悩みかもしれません。

でも、この二つは僕にとって解決できれば、これからの人生ガラリと変わるほどの大きな悩みなのです。

知られたくない、触れられたくない『人知れぬ悩み』を、もし持たない人がいたとしたらその人は感性の乏しい人間だと思います。・・・・・・

「思うこと」寄せられたメール

大石様：

第一回目「思うこと」楽しく拝見しました。難しい黄輿を詩情豊かな史文章で記述され、家内や 92 歳の義母共々拝読することでした。次号を楽しみにしております。赤塚晴彦

大石君・・・・・・・・・・隈元です。

先日の次回の執筆者に大石君の名前があった時から楽しみにしていました。

内容・文章とも素晴らしい！けだし名文だよ！

次回からも楽しみにしています。

私も先輩に勧められて“ゆーとぴあ”（先週の金曜日の朝刊に紹介されていた）という月刊誌にちょうどこの一年間エッセイを書いてみたが、まずテーマの選びかたから始まり文章などむつかしいことばかりです。しかし文字数の制限などが無いので、気楽には書いています。「思うこと」は制限はあるし、何10万という不特定多数の人が読んでくれていると思うのでこれからも頑張ってください

他に戴いた人 森くん 池田さん

夕刊読みましたよ。勉強になります。毎回楽しみにしています。

塚田君もテレビで川柳の解説・指導、満山君もホームランバッター・・・・有名人多し 十月十八日を楽しみにしています 益山

昨夜の南日本新聞夕刊で気付きましたよ。たのしみに読みます。筆まめな大石さん、さすが、と思いました。おからだをご自愛くださいますように。 和田2丁目31-24 右田千波

大石様：

①「親孝行」の記事、納得しながら拝読しました。

お金持ちになり親孝行する・・現代中国青少年の本音だと信じますが、小皇帝の姿からは、親孝行の美德は失せて来ているようにも思います。大きな天眼鏡で夕刊を読みながら、眼を輝かして頷いていた 93 歳の老婆・義母の姿が羨ましく思われました。小生と同居している幸せを感じられたのかしら・・・・それは有り得ない事です。

やはり実娘（私の家内）と、仲良く喧嘩できる喜びでしょう。 赤塚

第3号・『日本人の常識では』に対して

・・・・読みました。よくまとめましたね。中国人と日本人の違いはさまざまな場面で痛感します。やはり中国の油絵は歴史がないのですね。また健筆期待しています。 塩田

●美華園の陳社長から2回、電話をいただく。「中国人はけしからん」と1時間。

大石さま

今回の執筆陣のなかで、もっとも幅広い体験談が文ににじんでいて、興味深いものがありました。中国四川地震の被災地はまだまだ大変そうですが、報道もだんだん下火になっていますね。北京五輪のころはどうなっているのでしょうか。

飲み方の取材は、2週間ほど前までに夕刊特報チームに連絡すればOKです。

直通電話(813)5172 ファクス(813)5177 です。 **南日本新聞社 文化部 竹井 博行**

③金曜日(13日、夕刊)、長沙での銭湯の話は大変面白いでした。

これまで誰も触れなかった現実に、市民は驚きと興味を持ったと思います。

小生も「下ネタ」の調査をしておりますので、今後の視点を得ました。

奇麗事ばかりではつまらなくなりますが、中国の生活が滲み出て、傑作。 **赤塚晴彦**

2013年の思い出 幸枝様

早いもので花の都から薩摩の国に戻って20日が過ぎようとしています。最近なぜか「過ぎる」ということばが気になります。

昔、小椋佳が書いて、井上陽水が曲を作り、唄ったフォークソングがありました。ぼくは作詞した小椋佳本人が唄う『白い一日』の方が好きでしたが、3番目の歌詞の『通り過ぎる車を待つ君が遮断機が上がって振り向いた君はもう大人の顔をしていた』を聞いてから1番目の歌詞を聞くと、眺めていた陶磁器は君自身だと確信していました。「真っ白な陶磁器をながめては飽きもせず、かといって触れもせず、そんなふうに君のまわりで僕の一日が過ぎて行く」は若い頃の想像をたくましくしたものでした。

でもこの当時はあまり関心がなかった4番目の歌詞が最近主役に躍り出てきました。

ちなみに4番目の歌詞は「ありふれた幸せを持ち込めればいいのだけれど 今日も一日が過ぎてゆく」と、けだるさだけが残る歌ですけど、ぼーっと過ごしてしまった日の終りに、つい口ずさんでしまいたくなるのはなぜでしょうか。それもこんなふうに間違えて唄が聞こえてくることがあります。「ぼくのまわりで今日も一日が過ぎて行く」と。過ぎゆく一日一日を今、自分はどう捉えているのだろうか。こころの奥底ではこれはまぎれもなく「焦り」と「諦感」にちがいないと。

さて、後先になりましたが、2013年5月19日と言う日は今回の東京旅行で思い出深い1日になりました。15日～22日まで1週間どの日も充実してはいたけど、19日は本当はいちばん予定のない移動日のつもりでした。大相撲も、プロ野球も時間が合わないしな、と思案しながら。

前日、急に東京タワーに行きたくなりアクセスをあれこれ考えていました。ネックは重い旅行カバンの処置でした。そんなとき、東京の友人から「渋谷おはら祭で玉龍が踊るから見に行ったら」と電話がはいり、ぼくの脳内無線が「渋谷おはら～木村幸枝」とつながり、すっかり今回は忘れていた貴女の顔が浮かびました。

瞬間、あの日のふたりの行動は過去形として浮かんでいました。ので、あのときの電話の貴女の返事は僕にとってシナリオ通りのストーリーだったのです。(ごめんね)ほんとうにいい日でした。とりわけ渋谷までふたりで乗った路線バスの記憶はぼくの宝ものになることでしょう。

あんなにしてふたりで2泊3日ぐらいの国内旅行をしたいね。ツアーには熟年夫婦の思い出旅行と偽って。

元気でいたらある日とつぜんぼくからこんな唐突なでんわがないとは限りませんよ。何年先なのか、夢でおわるのか、神頼みですけどね。 **東京に行く時はまた二人でデートしましょう。**

3月のエッセイ その1

○クリスマスローズが咲きました。春がそこまで！お変わり在りませんか…。万年文学青年—自称の亡き父とあなたが重なってしまいます。何故かうつむいて咲くクリスマスローズが嫌いな人だった事を思い出してしまう今の季節です。 ホットマン 2015.3.6



●こんばんは。クリスマスローズをネットでたくさん見ました。確かに親に叱られた子どものようにしよげて「うつむき」かげんの花ですね。ときどき立派過ぎて細い枝に支えられずぐったりうつむいた薔薇を見ますが観ていて辛いです。とても花びんには活けられません。 けいじくん 3.6
余談ですがプレーボーイという橙色の一重のバラをご存知ですか？—昨年、鹿屋バラ園で500円で切り株を買い鉢植えにしました。○でした。棘が無かったら薔薇には見えない可憐な薄い橙色の花が次々に咲きクリスタルの細い花びんにぴったりでした。何が良いつてその葉っぱのツヤです。ツヤ出しスプレーを吹き付けたようで花なしでも○でした。ところで僕もクリスマスローズはゴメンです。今度花屋さんに観に行ってきます。御家の花は何色でしょう。

○ 鹿屋バラ園ご一緒しましたかしら？内之浦とか…一昔前になりますね。オレンジの一重がプレーボーイとは、花屋で探してみます。マイクリスマスは濃いパープルと若草色、こぼれ種から広がって□何時までもさいていますね。此れからです。チョコレート色が欲しいのですがなんと無く時が過ぎてしまいました。何故か好きなのです。私みたいでしょ？----- ホットマン 3.7

—あるものを見るとある人の顔がすぐに浮かんでくることがある。あるものといってもいろいろで歌名（メロディ）の場合もあれば食べ物の場合もある。ある場面—たとえば、風呂に入る、道路を車で走っている曲がり角にさしかかると一瞬、ある人の顔が浮かんでくるとか、脳の何処かの部位がフラッシュバックする。

先日、高校3年のクラスメートだったホットマンさんから上のようなメールが届いた。ぼくとクリスマスローズが重なった（といっても直接にはなくお父様と介してだが）そうでこの場合「光栄です」と喜んでいいものかよくわからない。

とりわけ僕の場合はメロディとある人が重なることが多い。

自前のカーステレオから流れてくる曲に乗って懐かしい友との思い出の光景を次々に想い浮かべるのはたのしいことである。思い出すままに何名か実名をあげてみようと思う。

「さらばジャマイカー—ハリ—ベラフォンテ」は市来龍作と鹿児島駅前の音楽喫茶「エデン」そしてダブるようにあの当時登場したばかりの33センチLPが脳裏に浮かんでくる。

「ブルースを唄おう」と「雨に歩けば」は中学時代からのぼくの悪友（とても親しかったという意味で）有村文之の口ずさむ顔があらわれる。しかも決まって文之が結核を患って入院していた照国神社の下の高岡病院の病室である。交わした会話まで浮かんでくる。

大平博美は小学校の5、6年から中・高・大人まで仲良しだったけど顔にダブるメロディは「三橋美智也の愛ちゃんはお嫁に」なのは何故なんだろうか。唄っている場所は横浜綱島のアパートである。もう1曲ぐらいあるだろうといえはあった。「アンソニー—パーキンスの月影のなごさ」博美は故郷宮崎に帰ってお父様の

仕事の跡を継いで鉄道郵便の職につき仲間とハワイアンバンドを作って楽しんだと聞いた。
浜崎隆くんにペアリングしているぼくの脳裏の曲はと言えば何と言ってもロックンロール、初期のエルヴィスナンバーが彼のボディアクションと共に甦ってくる。「冷たくしないで」などだ。
大学の頃の仲間は多いが兄の友達（名前は忘れた）が唄っていた裕ちゃんの「男の横丁」も懐かしい。
相本の従姉妹のかっちゃん（カワいい共立高校1年生）は飯田久彦の「ルイジアナママ」そして名古屋のサー坊は「東京ナイトクラブ」「マヒナスターズ」と続いていく。
美容師の先生時代に次々に代わる店のスタッフ（16才から23才ごろまで）の顔もその時代を共有した歌手やグループがくっついているから面白い。沼田聖子とドリームズカムトゥルー。大重？と「しおさいの詩」
ところで不思議なことに、60代以降に数知れない中国人朋友たちと付合ったけど何故か名前とすぐ浮かんでくる音楽はない。最初に書いた車を運転している時の人で何故その場所だと、どうしても解けない人の名は川越睦子である。もう説明が長くなるので彼女のことは忘れて下さい。車が左折するとすぐ近くに隠れ家のようなホテルがあったようななかったような。

- 美しい花色。探して見ます。??夫人もショックから??花談義たのしいでした。 ホットマン 3.7



- チョコレート色のクリスマスローズ見つけて来ました。